

坂東会

八代目所蔵の

浮世絵鑑賞

「大山参り」

五渡亭国貞画（三代歌川豊国）



文政七年（一八二四）、江戸・市村座における三代目坂東三津五郎が舞踊『大山参り』の鳶の者に扮し、梵天を担いで踊る場面です。

役者浮世絵はプロマイドのような役割を果たしていましたが、それだけでなく、さまざまな情報が描かれた、歴史の記録資料でもあります。浮世絵右上に「三つ人形の肉」とあり、この時は『初雁の傾城』『天山参り』『傀儡師』と三変化の舞踊だったことがわかります。画面外から伸びる柄の先に角形の燭台がついた「差出し」と呼ばれる照明具が描かれています。これは当時、舞台で役者の顔を照らすために用いられたものでした。

また、三代目の後ろに座っている二代目坂東三田八は三代目の次男（説に三男）です。三田八改坂東三八とある通り、本舞台で三代目坂東三八を襲名しました。生年は未詳ですが、文政四年（一八二二）に二歳で初舞台を踏んだとの記録があり、三八襲名時は五歳くらいでしょうか。のちに十代目森田勘弥となる三八の幼き日の姿です。

（根岸美佳・角川武蔵野ミュージアム学芸員）

*八代目家元が国立劇場へ寄贈した浮世絵は約一七〇点以上にのぼり、その中から主に踊りに関するものを取り上げ鑑賞します。

「大山」については6、7ページでも紹介しています。

コロナ禍の時代に感じること 家元坂東 巳之助

テレビをつけても新聞を読んでもインターネットを見ても、どこもかしこもコロナコロナの世の中でもうコロナの話題を見たくないという方もいらっしゃるであろう事を思うと、大変心苦しい思いしておりますが、私自身に新型コロナウイルス感染症の大きな影響が降り掛かる事態となり、このお話は皆さまにお伝えせねばなるまいと意を決して筆をとっております。

去る4月、私が主演を務めさせていただくはずだった梅田芸術劇場主催ミュージカル『消えちやう病とタイムバンカー』が、関係者に陽性者が出てしまった影響により、全公演中止という結果となりました。

この作品の稽古場では、当然の事ながら最大限の感染対策を講じて稽古に臨んでおりました。具体的には、稽古場入口でまず手指の消毒、道中つけてきたマスクを専用のゴミ箱へ破棄し新品のマスクへ交換、検温、屋内専用の履物に履き替えて消毒マットを踏んだ上で入室。稽古中もマスクを外す事は決してなく、一時間おきに搬入口を含めた全てのドアを開放して換気。加えて、稽古休みにおいてはアプリを用いて関係者の体温を管理し、一週間に一度PCR検査を行っております。その検査で陽性

者が発覚したのです。

陽性者の感染経路については不明ですが、感染対策を徹底していたからクラスターには至らずに済んだという見方も出来ますし、それだけの対策を講じても感染する時はしてしまうのだという見方もできます。ともあれ、稽古は二週間以上ストップせざるを得なくなり、やつとの事で再開した稽古ではより一層徹底した対策を求められる事となりました。

歌舞伎や踊りと違い、初めましての方ばかりの環境で、演者やスタッフの方とのコミュニケーションも満足に取れず、自分が出ていない場面の稽古は見る事すら難しい。深夜に及ぶような根を詰めた稽古をする事も許されない。コロナ禍前の環境を思うと、大変に不自由な稽古でした。

新しい作品を生み出すというのは、次から次へと現れる困難を乗り越えていく作業の繰り返しです。目標と現状、理想と現実の折り合いをつけていく作業ともいえます。これには膨大な時間と労力が必要ですが、その時間を大幅に奪われてしまった以上、作品を成立させるためにはこれまでの経験値と起死回生の閃きに賭けて一か八かの勝負に出るほかありません。

しかしながら、作・演出を務められた長久允さんは本来は映画監督であり、舞台を手がけるのは本作が二作目でした。また出演者にも、ダンスや音楽などのジャンルで活躍されているものの舞台演劇や演技の経験はほとんどない、という方が大勢おられました。時間不足を補うだけの経験値も足りないという状況で、わざわざ劇場にいらして下さるお客様にお届けし得るものを完成させるにはあまりにも時間がない。ついには止むを得ず全公演中止と相成った次第です。

「純粹に稽古に励み公演をし、お客様にご覧いただく」という事がこんなにも難しい世の中になってしまったのだという事を、身を以て痛感する出来事でありました。楽しみにして下さっていた皆さまには大変申し訳ないことと思っております。

願わくば、かつてのように何の気兼ねなく稽古や公演が出来る世の中に還ってほしいと祈らずにはいられません。折つてばかりでは何も変わりません。コロナ禍の中でどうしたら日本舞踊を人々の心から消えないようにしていけるのか。もつともつと盛り立てていくにはどうしたらよいか。皆さまのお力、お知恵も拝借しながら、この時代を共に踏ん張っていきましょうと思っております。

二〇二〇年十一月の
博多座特別公演を拜見して

坂東信知寿

新型コロナウイルス感染症の収束はどうなるのでしょうか。私たちも三月からお稽古が出来なくなり、ひきこもり状態で体も気持ちも何やらむなしく落ち込んでおりました。そのような折、家元さまが博多座公演にご出演とお知らせに、公演の日をうきうきと心待ちにしておりました。博多座はコロナ対策での観客整理はされていましたが、久しぶりに華やかな舞台が拝見できる高揚に包まれていました。

さあ、幕が開くとエッ……びっくり。舞台の地方の皆さま、コロナ対策でしょうか。全員黒いのれんマスクで鎮座され異様な雰囲気でしたが、曲が始まると違和感なく観ることができました。家元

さまの『流星』を拜見して、まずと、十代目のお姿と重なり深く胸に響き、『茶壺』ではお客様の笑いがマスクからこぼれ、『お祭り』では生き生きと獅子頭をあやつり、かぶりを取ってお顔を出してきまった時には、つい大向こうをかけそうになりマスクを押えました。お客さま全員、大きな大きな拍手でありがとうのエールを送っていました。「やっぱり歌舞伎はいいな」「やっぱり歌舞伎はいいな」と、皆さま思われたと思います。家元さまのお元氣な素晴らしい舞台を拝見し、感動と元気を頂戴しました。ありがとうございました。

のぼり
博多座の前に並ぶ幟新春舞踊大会で
奨励賞を受賞して

坂東映司

この度の新春舞踊大会に参加することを決めた時は、以前から踊ってみたいと思っていた『半田稲荷』を迷わず選曲しました。

トキメキ頼りに選曲しましたが、いざ稽古を始めると、小道具の扱いが特に難所。稽古のために区民センターの天井の高い部屋をお借りしたのですが、何度も幟旗のぼりばたを持って現れる私はすっかり有名人です。受付では毎回「今日もがんばって」「お疲れ様」と声をかけていただき、お掃除の方は「曲が流れている時は掃除機止めておいたよ」とお気遣いくださるなど、大変うれしかったです。また、半田という苗字の方に呼び止められ日本舞踊を説明するとういうエピソードもありました。そして何より、坂東流で伝承されている演目を未熟ながらも深めていくお稽古は、大変に魅力的な時間でした。



「新春舞踊大会は、坂東流の諸先輩からいろいろな感想や助言をいただける貴重な機会です」と映司さん

十代目が亡くなられた年の新春舞踊大会は強く記憶にあります。本番の失敗に肩を落としていると十代目が自分の事のように悔しがって下さり、「そういう事もあって励まして下さいました。あなたがかい笑顔が忘れられません。青年部の仲間と一喜一憂しあえたのも新春舞踊大会でしか味わえない経験でした。

特別な形で開催された今回の大会でしたが、審査員の先生方の温かさが満ちている空間での演技は貴重な体験となりました。最後まで惜しみなくご指導下さった三津映師匠、後見として稽古につきあってくれた姉の三太映との稽古は常に楽しい時間で本番の大きな力となり、奨励賞に結びつきました。ありがとうございました。

三年間おつかれさままでした。 各支部旧役員ごあいさつ

理事

扇菊・利太郎・三裕起・友女香寿・若梢・蝶・京弘女

始めの二年間は多くの行事を計画、実行し坂東会運営の活性化を図りました。このコロナ禍では、全ての行事を中止、または延期する重要かつ迅速な決断を迫られました。が、家元のお人柄や見識に触れ、また、生涯の良き仲間を得た貴重な三年間でした。

(扇菊)

広報部

三千踊・喜美生・千代弥・はつ花・寿々風

担当の三年間は、平成から令和へ、そしてコロナ禍と次々とやってくる変化の連続でした。その中で広報部が変わらず目標としたのは、会員への情報提供の充実です。なごやかに、そして時には丁々発止の活発な議論で、青春再びの楽しい時間を過ごさせていただきました。

(喜美生)

企画部

章太郎・富三乃・三千優・真三祥

企画の運営にあたっては毎回手探りで、試行錯誤の連続だったような気がします。それでも何とか乗り切ることができましたのは、理事の先生方のご助言や委員の皆さまのご協力のお陰でした。全てが勉強になる事ばかりで、心から感謝申し上げます。これを機に今後も一層、坂東流の一員として精進してまいります。

(富三乃)

中国支部

三導由

三嘉寿美師匠がお亡くなりになられた後の中国支部委員をお引き受けさせていただきました。あつという間の三年間でした。勝手がわからず九州支部の委員の方にご指導をいただきながら何とか務めさせていただきました。今後も皆さま方のご指導・ご協力をいただき坂東流の発展のため、微力ながらお役に立てるよう頑張ってくださいと思っています。

(三導由)

九州支部

三与昭・信知寿・錦寿・三喜代

九州支部では、家元講習会を開催いたしました。家元さまの熱心なご指導のもと難技な『棒しばり』を習得し、参加者全員充実した二日間となりました。新型コロナウイルス感染症の収束を願いつつ、九州支部はこれから先を見据え、役員一同力を合わせ前に進みたいと思います。

(錦寿)

四国支部

仙章・櫻子・藍乃

四国はまだ支部の活動ができていませんが、新型コロナウイルス感染症の状態等をみながらお家元に時間を作っていただいて講習会を開催できればと思っています。また、ゆかた会なども開催できるよう企画していきたいと思っています。

(藍乃)

関西支部

三勇寿・弥余伎女・伊順

振り返ってみますと「後見のお話し」「ゆかた会」「家元講習会」など、皆さまのご協力のおかげで無事終えることができました。今年もコロナ禍で大変なことが続いています。安心・安全に心を配り、西日本チャリティー舞踊会開催を第一に考え、他、企画会などができることを願っています。

(三勇寿)

東海支部

三弥嗣・伊峰

初めての経験ばかりでしたが、たくさんの方の経験をさせていただきました。新型コロナウイルス感染症もあり活動が出来ない期間も長くありましたが、三弥嗣先生とも一緒にさせていただきとても楽しくお勉強させていただきました。(伊峰)

東北支部

寿英

十代目お家元の松島での講習会の直後、東日本大震災に見舞われ、早や十年。余震や新型コロナウイルス感染症等により舞踊人口が減少。先が見えない状況で思うような活動ができませんでしたが、日本舞踊協会宮城県支部開催の第一回子ども舞踊会参加に向けて頑張っています。(寿英)

北海道支部

希代広

十五年前、十代目のお家元が公演で札幌にお越しの折、「今稽古の師匠はどなた」とお聞きになられ「亡くなりましたので……」と答えましたところ、「それでは私が紹介するよ」とお話ししました。数日もしないうちに、芸はもとよりお人柄も大変素晴らしい相談役の希先生をご紹介いただき現在に至っております。

最後に失敗談を一つ。会食の帰り道、「僕食べたけれど、帆立あまり好きでないの」と粋にさらっとおっしゃいました。実は差し上げたお土産も北海道名産の帆立で後の祭りでした。素敵な一コマを大切な思い出として、いつまでも感謝いたしております。(希代広)

関東甲信支部

富三輔・勇弥・加代壽

関東甲信支部は、群馬(富三輔)、千葉(勇弥)、神奈川(加代壽)と離れておりますが、令和元年四月六日に東京の「伝統芸能情報館」において、渡邊雅氏を講師にお迎えして講演会を開催することができました。「道具のお話し」と題し、私たち舞踊家にとっては大変有意義なお話をうかがうことができました。

当日は百名を超す皆さまの参加をいただき、主催者の一人として改めて感謝申し上げます。

その後は残念ながらご承知の「コロナ禍」にふりまわされ、何事もできぬままに終わってしまいました。これからも坂東流の一人として微力ですが、一生懸命努力してまいりたいと思っております。(富三輔)

ハワイ支部

三津政

この任期中はハワイも日本と同様に感染症の脅威にさらされおり、支部の活動どころかお弟子さんのお稽古もできない状況でした。前号の会報で家元がおっしゃいましたように、今はまだ慎重に冷静にありたいと思っております。(三津政)

ロサンゼルス支部

秀十美・拡七郎

ロサンゼルス支部委員として、アメリカで坂東流の踊りをより多くの人へ広められるように考えております。テクノロジーを活用して、アメリカと日本を今よりもさらに深く結びつけることに貢献できればとも考えております。(拡七郎)

清元『山帰り』～大山阿夫利神社

富士山と並ぶ信仰の山・大山は、旧暦の六月二十七日から七月十七日までの間、奥の院石尊社（阿夫利神社）の参詣が許され、豊作、大漁、商売繁盛、無病息災などを祈願しました。これが大山参りで、江戸時代には参拝と帰路に江ノ島などに立ち寄る「精進落とし」をかねた遊楽として、江戸の鳶職、大工などの職人たちに大変人気がありました。なかには、借金取りから逃れるために出かけた者もあったとか……。

その風情を舞踊化したのが『山帰り』です。今回はその大山阿夫利神社を訪ねてみました。

眺望の素晴らしい下社

バスを終点で降り、少し歩くと「こま参道」が見えてきます。こま参道はケーブルカー乗り場まで続く三六二段の階段。郷土玩具の大山こまをデザインしたタイルが楽しく、参道の両端にはお土産屋さんやお食事処が並んでいます。約15分で大山ケーブル駅に到着。ケーブルカーの終点が阿夫利神社駅です。

阿夫利神社は今から二千二百余年、人皇第十代崇神天皇の時代の創建と伝えられる由緒ある神社です。阿夫利神社駅を下車してすぐの下社は標高約七〇〇メートルにあり、眺望が素晴らしく、訪れた当日は晴天に恵まれ清々しい気持ちになりました。また、拝殿の右側の地下巡拝道を進むと御神水の大山名水が湧き出ています。

険しい山道の先には

お参りをしたらこれからが本番。本社がある大山山頂を目指します。途中には千本杉、樹齢約六〇〇年の夫婦杉、ぼたん岩、天狗鼻突岩など見どころが数々あり、なかでも山頂附近の富士見台からの眺めは絶景……のはずなのですが、この日は雲が重なり富士山を見ることはできませんでした。

本社、奥の院のある山頂は標高二二五二メートル。眺めは壮大で、この景色を見たら険しい山道の疲れも吹き飛んでしまうことでしょう。大山は別名「あめふり山」と呼ばれていますが、雨や雲が山上に生じ常に雨を降らすことからこう呼ばれるようになったそうで、本社横には「あめふり山」の名

の由来となった御神木「雨降木」があります。

十二年前に十代目が『山帰り』を奉納

帰路は別なコースをたどり、往復約4時間のコースでした。

帰りはお楽しみの名物の豆腐料理。こま参道にある食事処「かんき楼」に立ち寄ると、十代目のサイン色紙を発見しました。平成二年「山帰り奉納」の時のもので「お声をかけてサインをいただきました」と、うれしそうにお話ししてくださいました。坂東流一門として、大山はとても身近に感じる山でした。

（企画・構成／企画部）

アクセス

小田急線伊勢原駅北口下車→バス「大山ケーブル行き」約25分→終点「大山ケーブル」→参道徒歩約15分→大山ケーブル駅→阿夫利神社駅→徒歩で阿夫利神社下社→徒歩で本社





阿夫利神社本社

山頂標高 1252m

富士見台



28丁目

天狗鼻突岩



20丁目

夫婦杉



15丁目

阿夫利神社下社 標高 約700m



8丁目



二重社

1丁目

阿夫利神社駅



見晴台



大山寺



大山寺駅

男坂

ケーブルカー

女坂



大山ケーブル駅

大山ケーブル
バス停



こま街道



動画を坂東会ホームページに配信しています
そちらも併せてご覧ください



伝承 坂東流

監修 坂東寿子

第六回 供奴

はじめに 坂東流の踊りの流れ

三代目三津五郎秘伝の『娘道成寺』がお狂言師二代目坂東三津江から七代目へ伝承されたことは第一回(会報一三〇号)で考察してきました。お狂言師のうち坂東を名乗る人は多く、芝居仕立ての「顔見世舞踊」の数々がお狂言師から女師匠へと引き継がれ、化政期の古風な演目が伝承されるに至っています。

七代目付き狂言作者をしていた小島二朔氏によると、大正末年から昭和の初めにかけて、七代目、八代目が廃滅されている曲の復活上演を企画し、古参の女師匠により『鬼次拍子舞』『仲蔵狂乱』『俳諧師』『小ひな半兵衛』『与五郎狂乱』などが復活上演されました。一方、七代目の踊りの師匠は四代目中村芝翫、二代目藤間勘右衛門、花柳勝次郎で、歌右衛門系の

踊りはこの流れでも伝わり、七代目の継承の正しさは役者衆からも教えを請われるほどの信頼を得、また、坂東流の大切な演目となる流れを生みました。

では、そのうちの『供奴』の伝承の足跡と逸話をたどってみましょう。

七代目の芸の正しさ

『供奴』の初演は文政十一年、当時二代目中村芝翫を名乗っていた四代目中村歌右衛門。

七代目は四代目芝翫から『供奴』を教わったので、初演から続く流れにあります。その稽古はちよつとでも

間違えたり気に入らなかつたりすると、「シテコイナ」と、また初めからやる、「体ができるまで仕込む」という厳しいものでした。

四代目芝翫亡きあとは五代目歌右衛門から、「三津五郎は親父から直伝だからせがれに教

えてやってくれ」と頼まれます。ところが稽古を見ていた五代目に「そこは違う」「そんな親父の手はない」と教えている自分が先に叱られ、「何のことはない。教わった踊りの取り返しを食ったようなもの」と謙遜して述べられています。これは七代目二十代頃のエピソードで、その後も稽古を任されていたことから、いかに七代目の芸が正しいものであったか、その信頼の高さを知ることができます。

昭和十一年の三代目歌右衛門建碑興行では、七代目は供奴を『芝翫奴』という名題に変えて踊られました。



七代目「芝翫奴」奴三津平(昭和14(1939)年1月 歌舞伎座) 国立劇場蔵

踊りも三味線も変わらない 「奴の足」の口伝

七代目の『供奴』は八代目へと受け継がれます。

子供の頃のお稽古で、「お前さんののは片方の足を下ろしてから片方の足を上げるから駄目なんだよ、右の足を下ろす前に左の足を上げるようにしなさい。それでなくては奴の足にならない。パツパツと足を上げなさい」と叱られました。ですがそう心がけてもなかなか言われたようにはできません。それが後年(四十歳頃?)『小原女奴』を踊った時、片足を下ろしかけると次の足が上がった。踊りながら面白いように片足が下につかぬうちに片足が上がる。踊っていてうれしくてたまらなくなり、三味線を弾いていた杵屋勝太郎さんにお礼を言うと、勝太郎さんは「私がまだ子供の頃、やはり奴物や行列三重を弾く時、撥を持っている手をひっぱたかれ、それじゃ奴の足が地につく、奴の足がパツパツと上がるように弾くと何度打たれたかしれません。それがあなたのお父さんもきつと昔の人から教わったのでしよう。踊りの教えと三味線の方の教えが全く同じで、昔の人は嘘を教えなかった」と目に涙をためて語られたといひます。

七代目の稽古で得た九代目の悟り

九代目は『供奴』と『舌出し三番叟』を七代目から直に教わっています。七代目が七三歳の頃で、六代目尾上菊五郎の元で修行した九代目にご自身のものを伝えた貴重な伝承です。七代目、そして御新造から「大きく動いちゃいけない」と言われるのでその通りに踊り写真を見たら、何ともみっともない。古い番頭さんに七代目の三十代、四十代、五十代、六十代のプロマイドを見せてもらったところ「七代目も若い頃はしつかり足を割っているんですよね。ところが晩年はちよこつとしか割っていないのいい形なんです。内容を肥やさないうちに圧縮された芸を一概に真似をしてはいけない」と語られています。

奴で大事なのは愛嬌と丸み

十代目は坂東流の『供奴』の特徴について次のように著書に記しています。「坂東流は必ず赤い顔でやります。それから踊り方も、やはり六代目さん(六代目菊五郎)なりのシャープな踊り方が今主流になっていますけれど、うちはあくまでも顔が赤いように、踊りも奴らしく、もう少し土臭い、味のある、丸

い踊りです。奴の鋭さとか力強さではなくて、奴の愛嬌と丸みが大事です」。四代目歌右衛門初演の時は変化物の一つだったので顔は白いままだったのを、四代目芝翫が単独で上演した頃は赤っ面せつめんでやっていたことから、坂東流でもそれを受け継いでいるということです。十代目は平成二四年から二五年にかけて坂東流青年部研修会で、若い世代への伝承に努められました。

十代目が亡くなられた年、平成二七年「坂東会創立九十五周年記念舞踊会」で当代が『供奴』を踊られたことは大変感慨深いことでした。今後二十年、いや三十年くらいは再演が望めますでしょうか。期待してやみません。

◎参考文献

- ・坂東会会報一九号(昭和四五年発行)
- ・兼子伴雨編『踊の秘訣』
- ・利倉幸一編著『七世坂東三津五郎 舞踊藝話』
- ・八世坂東三津五郎著『歌舞伎花と実』
- ・八世坂東三津五郎著
- ・『聞きかじり見かじり読みかじり』
- ・『歌舞伎と日本舞踊 坂東流を語る』第二巻
- ・坂東三津五郎著 長谷部浩編
- ・『坂東三津五郎踊りの愉しみ』

歌舞伎役者として、坂東流の家元として、常に上を目指し五九年という人生を駆け抜けた十代目。爽寿という俳号を持ち、句作にも熱心に取り組まれていました。その俳句を紹介しながら、十代目と縁のあった方たちにエッセイをいただきます。

第一回は長く俳句誌の編集長を務められ、十代目が参加していた「百夜句会」の事務局の任に就いておられた山口亜希子さんです。十代目が句作に取り組む様子を、身近でご覧になっていたお一人です。



三津五郎さんの俳句

山口亜希子

坂東三津弥さん

その下に風を育む柳かな

坂東三津五郎(爽寿)

寒さに耐えた柳の裸木は春先に芽吹き始めます。寒が明けても一進一退。萌え出た葉が風になびくころ、ようやく春が定まります。

柳は一年中ありますが、日々変化する柳の姿

そのものに春を感じることから、万葉以来、

日本の詩歌で「柳」といえば春です。

ハンドルを握って自宅から歌舞伎座へ通

う道すがら、皇居お濠治いの柳をよくご覧に

なった三津五郎さんは、「春は柳が毎日姿を

変えるよね」と話されていました。

この作品は平成十七年(二〇〇五)、月刊俳

句総合誌『俳句界』が企画した「今年一年お世

話になりました！挨拶句競詠」という特集の一句でした。

「家族、先生、友人、有名人……どなた宛でもけっこうです。今年一番お世話になった方の名を挙げて、その方への挨拶句(新作)をお寄せください」という依頼を承諾した八十八人の俳人のお一人が三津五郎さんです。作品には、「五歳のときに手ほどきを受けてより、蔭になり日向になり私を守ってくれた三津弥先生と、今年「芋掘長者」という踊りを復活しました」というコメントが添えられていました。

揺れる柳を「その下に風を育む」と表現した三津五郎さん。風は、やがて薫風や南風となり、青々とした夏柳をしなやかにそよがせることでしょうか。

俳句は、よき読者の鑑賞を得て初めて詩として成立すると言われます。作品発表から十六年。ようやくその「読者」(これをお読みの皆さまです!)を得たと思えてなりません。

花過ぎて形見となりし眼鏡拭く

桜時も過ぎた束の間、久しぶりに気持ちがいっぱい読書に向いたのでしょうか。「形見となりし眼鏡」とは、お父さまである九代目遺愛のお品でしょうか。

この句は『俳句界』平成十五年（二〇〇三）五月号掲載、「芸妓の衿」十句のうち九番目の一句です。表題句「顔見世や芸妓の衿のなほ白く」は、顔見世興行詠連作五句中の四句目。編集部が企画した「往復書簡」のために詠み下ろした作品です。

三津五郎さんにとってただ一人の俳句の師である黛まどか先生をお相手に、平成十四年十二月三日黛先生発の第一信から、翌年三月十五日三津五郎さん発の第三信まで、実際に交わされた書簡の全文を掲載、公開しました。

三津五郎さんは俳人の西村和子さんとの対談で、「二一世紀が始まった二〇〇一年一月一日の新聞（筆者注『産経新聞』）の新春放談で黛まどかさんと対談して、その時句会に誘われました」と、俳句を始めたきっかけを語っています。「誘われた句会」というのは「百夜

句会」で、前述の「往復書簡」掲載までに十三回実施しています。三津五郎さんは句会という座の重要性を理解し、熱心に通い真摯に俳句を学んでおられました。

蜘蛛の巣に掛かりて遠き夕陽かな

平成十六年（二〇〇四）八月二日、百夜句会第二一夜の出句作品です。

百夜句会は一四句提出。作者名を伏せて全員互選するのですが、本作は群を抜いて高評価を得ました。

この日は『蜘蛛の拍子舞』の初日で、三津五郎さんは源頼光役で歌舞伎座に御出演でした。初日なのに句会？これには事情があります。不定期開催が原則で、各界第一線で活躍中の方を会員に擁する百夜句会は、次の日程決めが毎回の試練でした。三津五郎さんの場合、お稽古中は出席が叶いません。ご自分の都合を声高に言うことも潔しとせず、「初日を迎えてしまえば逆にいいだけだね」とだけ伺っていました。黛先生に相談のうえ、この時はこの日程で設定し、皆さまへ御案内

したのでした。

三津五郎さんにとって、舞台初日の句会というのは本当はどうだったのか。この作品が遺った事実以外、確認のすべもありません。

幼な子の髪結うてやり夏の夕

平成二十一年（二〇〇九）七月二十九日、百夜句会第五四夜の出句作品です。「歌舞伎座よなら公演」が月毎に上演されたこの年、三津五郎さんは七回開催したすべての句会に御出席でした。

この句は楽屋の一光景を詠んだのでしよう。名にし負う坂東三津五郎丈は、小さい子を慈しむ守田寿さんでもあることが、この一句からしみじみ伝わります。

山口亜希子

「書肆アルス」を東京で営む。平成十三年、月刊俳句総合誌『俳句界』編集長（十九年）。百夜句会（指導／黛まどか先生）の事務担当。



名取試験・師範試験課題曲の講習会が変わります

これまで年に1回開催してきました講習会ですが、今年度から名取・師範試験に合わせて年2回行います。また、講師も変更になりましたので、受講資格などと併せてお知らせします。

講習会の目的は名取試験、師範試験へ向けたものですが、勉強のために受講したいという方も受け付けています。受講資格に条件はありますが、講習会はどこでも受講できます。せっかくの機会ですので、こうした場を利用して芸の精進に努めていただきたいと思います。



講師紹介

名取試験課題曲 『松の緑』

以津緒
真三祥
扇輔



坂東以津緒

師範試験課題曲 『北州』『藤娘』

三津桜
智和
映司



坂東三津桜

	名取試験 課題曲	師範試験 課題曲	
課題曲	『松の緑』	『北州』	『藤娘』
講習会	7月31日(土)	7月17日(土)	7月18日(日)
料金	5,000円	10,000円	10,000円
受講資格	師範資格を持っている方 ※ただし、師匠と一緒に受講するのであれば名取の方も受講できる。名取の方の受講料は5,000円		

※会場は未定です。

『北州』師範試験と講習会について

家元 坂東巳之助

当流はその成り立ちから、『北州』に限らずあらゆる曲において各師匠・各お稽古場によって振りに違いがあります。そうした中で父が『北州』の振りの統一を行ったのは、師範試験課題曲であり当流にとって大切な作品でもある『北州』の軌範となるものを示す、という意図によるものだったと私は理解しております。しかし、この「振りの統一」がいつしか父の意図を離れ、「師範試験は振りの正確性をみる試験である」「統一された振りでなければ落第してしまう」といった誤った認識へとつながってしまっているのではないかと感じています。

はつきりと申し上げておきたいのは、当流における師範試験は加点方式でも減点方式でもない、ということです。

きちんと音に当たったから加点、三つ下がるべきところで四つ下がりってしまったから減点、というような見方は一切しておりません。

大切なのは、きちんと身体が使えているか、曲の雰囲気・歌詞・振りの意味を理解し表現しようとしているか、です。

講習会においては、講師の先生方から歌詞や振りの解釈、表現方法などを学び取っていただくことが大切だと考えております。そうして講習会で得たものを試験に向けてのお稽古・研究のさらなる糧とし、試験の場で大いにその成果を発揮されることを心より望んでおります。

*『北州』講習会受講者に当日配布している資料から抜粋掲載しています。

坂東会のできごと

令和3年1~3月

「坂東会のできごと」では、理事会や委員会など坂東会の中でどんな動きがあったか、どんなことが決まったのかをお伝えします。こちらをお読みになって、ご意見などございましたら坂東会事務所へお寄せください。

一月十八日(月)

【理事会】

- 出席者／扇菊、利太郎、三裕起、友女香寿、若梢、蝶、京弘女、鷹野
- マスクケース販売の実行について

二月十五日(月)

【理事会】

- 出席者／扇菊、利太郎、三裕起、友女香寿、若梢、蝶、京弘女、鷹野
- 十代目七回忌について
- 坂東会から三十万円をお供えする。
- 令和二年決算報告書の確認
- イベントの中止に伴う諸経費の支払い、入金金の減少などで、繰越金が前年度を下回った。
- 百周年記念舞踊会について

- 百周年記念舞踊会実行委員を扇菊、利太郎、三裕起、友女香寿、若梢、蝶、京弘女の七名とする。
- 定時会員総会について

中止にする大きな要因がないので予定通り開催する。

昨年度懇親会用に購入した景品を今年の総会で抽選する案。抽選会の対象は昨年度出席予定だった会員に限る。

- 支部活動費支給の中止
- 支給方法について検討。
- 会報について

デザインの変更を検討中。

二月十九日(金)

【広報部委員会】

- 出席者／三千踊、三奈慧、三太映、喜美生、千代弥、寿々風
- 新旧引き継ぎ

二月二十四日(水)

【理事会】

- 出席者／久三之助、友女香寿、蝶、京弘女、勝規、鷹野
- 新役員顔寄せ
- 年内イベントの日程確認
- 令和二年決算報告書の確認
- 坂東会会費の値上げについて

新型コロナウイルス感染症の影響で延期とする。

【その他】

事務所の資料のデータ化の協力を坂東京弘女に依頼。

一般向けの講習会の開催を検討。坂東流にまつわる演目の講習会を検討。

浴衣地のグッズ他物販を検討。ホームページ会員ページに名取芸名一覧の掲載を検討。

第48回坂東会定時総会のご報告

3月20日(土)、東京国際フォーラムにおいて第48回坂東会定時総会を開催しました。

開会始めに会長より挨拶を頂戴し、物故された方々へ黙とうを捧げました。参加者は36名でしたが1,884名の委任状をもって全体の75%に達し、総会は成立。会長が議長に選出されました。

理事より昨年度の事業報告、今年度の事業計画の発表、事務局より会計報告、書面による新期役員紹介があり、滞りなく閉会。その後、昨年の懇親会のために用意されていた福引賞品の抽選を行いました。対象は昨年出席を予定されていた方とし、会長賞(訪問着)は晴三園さん、ことぶき賞(訪問着)は曾乃さんが当選されました。その他についてはホームページに掲載しています。



会計報告

予定事業の中止による繰越金減少の報告。

事業報告

企画部／「企画部がゆく」をホームページ上動画配信及び会報掲載、11月に予定していた役員による家元代々のお墓参りは見合わせ。

広報部／会報133号・134号・号外の発行、ホームページの充実化、SNS開設。

*チャリティーゆかた会、チャリティー舞踊会は中止。

事業計画(令和3年)

- 東京チャリティーゆかた会／8/15(日)日本橋公会堂
- 西日本チャリティー舞踊会／11/20(土)先斗町歌舞練場
- 第57回坂東流チャリティー舞踊会／11/28(日)北とびあさくらホール
- 坂東会創立百周年記念舞踊会／令和4年9/17(土)、18(日)国立劇場大劇場

三月七日(日)

【企画部委員会】

- 出席者／章太郎、富三乃、喜美生、三千優、ありか、真三祥、はつ花
- 新旧の引き継ぎ
- 家元講習会「河千鳥」後半の開催、役員での多磨霊園お墓参り、「舞踊ゆかりの地をたずねて」シリーズを引き続き行うなど。
- その他

扇供養の開催、舞踊曲のビデオ上映会、舞踊の講習会・研修会についても話し合った。

三月十日(水)

【理事会】

- 出席者／久三之助、友女香寿、蝶、京弘女、勝規、鷹野
- 後見の育成について

- 考えなければならぬ。
- 講習会について
- 坂東流に残していきたい演目の映像を上映するビデオ鑑賞会を定期的にを行うのはどうか。
- 三月十一日(金)
- 【西日本地区委員会】
- 出席者／三勇寿、弥余伎女、呂扇、雪丸、鷹野
- 年内イベントの日程確認
- 家元講習会について
- 「河千鳥」後半を家元にお願ひする。
- チャリティー舞踊会について
- 番組編成の確認。
- 感染症対策を検討。
- ゆかた会について
- 二〇二二(令和四)年開催を検討。
- 二〇二二年ゆかた会は六月十八日(土)先斗町歌舞練場に決定。

お知らせ



令和3年から6年の新しい役員が決まりました

令和3年の総会から6年の総会まで、左記の役員で坂東会の運営を行なっていきます。どうぞよろしくお願いたします。

- 会長 坂東巴之助
- 副会長 坂東寿子
- 顧問弁護士 清水直
- 監事 坂東寿子、近藤忠義
- 理事 坂東久三之助、坂東友女香寿、坂東蝶、坂東京弘女、坂東勝規
- 企画部委員 坂東喜美生、坂東ありか、坂東はつ花
- 広報部委員 坂東三千踊、坂東三奈慧、坂東三太映、坂東寿々風
- 九州支部委員 坂東三与昭、坂東信知寿、坂東錦寿、坂東三喜代、坂東真起文
- 中国支部委員 坂東三導由、坂東雪丸
- 四国支部委員 坂東仙章、坂東櫻子、坂東藍乃
- 関西支部委員 坂東三勇寿、坂東弥余伎女、坂東呂扇
- 東海支部委員 坂東伊峰
- 関東甲信支部委員 坂東昌裕美、坂東扇輔
- 東北支部委員 坂東寿英
- 北海道支部委員 坂東希代広
- ハワイ支部委員 坂東三津政
- ロサンゼルス支部委員 坂東秀十美、坂東弘七郎

● 百周年記念舞踊会実行委員 坂東扇菊、坂東利太郎、坂東三裕起、坂東友女香寿、坂東若梢、坂東蝶、坂東京弘女

● 百周年記念誌制作チーム 坂東京弘女、坂東勝規、坂東三奈慧、坂東三太映

● 家元の相談役は左記の通りです。
● 相談役 坂東梢、坂東三津祥、坂東三津映、坂東勝友、坂東三津二郎、坂東三津桜、坂東三津兵衛

試験



秋の名取・師範試験

詳しくは事務所までお問い合わせください。また、試験に合わせて講習会を行います。詳細は12ページをご覧ください。

● 名取試験／9月予定
● 師範試験／9月予定
● 会場／未定
● 申し込み締切日／7月末日

チャリティー舞踊会



第3回坂東流チャリティーゆかた会を開催します

今年も夏のゆかた会を開催します。お切符は出演者、または坂東会事務所までお問い合わせください。

日時／8月15日(日)午前11時開演予定
会場／日本橋公会堂(中央区日本橋牡蠣殻町)

入場料／1000円

出演をご希望の方はお問い合わせください

今年のチャリティーゆかた会は、名取だけでなく、一般のお弟子さんも出演することができま。これを機会に芸の精進、ほかのお稽古場の方たちとの交流につなげませんか。また、今回は動画配信(限定配信・有料)を検討中です。

● 出演費は38000円、入場券(1000円)が10枚含まれています。
● ※番数が揃い次第締め切りとさせていただきます。

第8回西日本チャリティー舞踊会を開催します

初の京都先斗町での開催となります。秋の京都にお出かけください。お切符は出演者、または坂東会事務所までお問い合わせください。

日時／11月20日(土)正午開演(午前11時30分開場)
会場／先斗町歌舞練場(京都市中京区)
入場料／4000円

● 出演者と演目

● 序幕 三津兵衛

● 常磐津 神楽娘 伊満若

● 義太夫万歳 蘭袈・伊寿之

● 長唄水仙丹前 沙美恵

● 義太夫櫓のお七 寛遊兎

● 常磐津松島 呂扇

「芸の伝承ビデオ上映会」のお知らせ

第1回と第2回は、坂東流一子相伝の『京鹿子娘道成寺』をテーマに寿子先生の解説を交えながらビデオを観賞します。貴重な機会ですので皆さまふるってご参加ください。

開催日と上映作品

6月5日(土)	『京鹿子娘道成寺』(立方・坂東寿子)前半
9月4日(土)	『京鹿子娘道成寺』(立方・坂東寿子)後半
12月4日(土)	『未定』(11月号でお知らせします)

時間／午後1時～2時30分

※変更となる場合があります。

会場／エッサム神田ホール1号館

参加資格／坂東流門下であること(名取以外も参加可)

定員／先着30名 参加費／3,000円(各回)

申し込み／ハガキ、またはファックス、メールで「参加者全員の芸名・氏名」「開催日」「上映作品」を記入の上、坂東会事務所までお申し込みください。

長唄官女	和香代
長唄丁稚	栄嘉・伊満若
長唄静	作千好
長唄藤娘	弥余伎女
清元お祭り	伊峰
長唄風流船揃	一二女
長唄新鹿の子	三勇寿
未定	温子

※番組は変更になる場合があります。

第57回坂東流たすけあいチャリティー舞踊会のプログラムが決まりました

今年は「北とびあさくらホール」(北区王子)にて開催します。お切符は出演者、または坂東会事務所までお問い合わせください。

日時／11月28日(日)午前11時開演予定
会場／北とびあさくらホール
入場料／5000円

出演者と演目	未定
序幕	未定
長唄藤娘	香寿重
長唄新曲浦島	優三郎
常磐津雷船頭	勝安栄
長唄鷺娘	姫菊
長唄大原女	賢乃助
常磐津屋敷娘	沙耶
清元お祭り	賢悠
長唄連獅子	香奈洋・恵和
長唄時雨西行	千扇・二十三
企鵝番組	蝶・友女香寿・京弘女
長唄雛鶴三番叟	寿雀
長唄俄獅子	三千優
常磐津こととい	勇富
常磐津朝顔売り	勇富

坂東登喜春さんが 苫小牧市文化奨励賞を受賞

令和2年11月、北海道在住の坂東登喜春さんが苫小牧市文化奨励賞を授与されました。この賞は苫小牧市内の文化の向上発達に関し、実績が顕著であり、かつ、今後の活動が特に期待される個人または団体に贈られるものです。登喜春さんは1968年から市内で日本舞踊教室を開き、後進の育成につとめ定期的な発表会を開催したこと、及び日本舞踊による国際交流への協力をしてきたことなどが評価され、令和2年度ただ一人の受賞者となりました。



11月4日苫小牧市教育長室での表彰状授与式。
写真は市長と(写真提供：苫小牧市)

坂東会創立百周年記念舞踊会の 開催日が決まりました

新型コロナウイルス感染症により延期となりました百周年記念舞踊会の日程が決まりました。詳細は追ってお知らせしますが、一人でも多くの方に足を運んでいただきたく思います。よろしくお祈りします。

日時／令和4年9月17日(土)・18日(日)
会場／国立劇場大劇場

常磐津年増	曾乃
大和楽江戸風流	永紫・誠
長唄楠公	利太郎

※番組は変更になる場合があります。

舞踊会

会員の舞踊会の情報です。お切符など詳細は会主、または坂東会事務所までお問い合わせください。

■映の会・三津映の会
日時／9月20日(月)・(祝)
主催／坂東三津映
会場／国立劇場大劇場

■第8回扇菊会
日時／9月23日(木)・(祝)
主催／坂東扇菊
会場／国立劇場小劇場

■登喜美会

日時／10月23日(土)	主催／坂東登喜美
会場／タワーホール船堀大ホール	■蕪の会
日時／11月3日(水)・(祝)	主催／坂東啓
会場／国立劇場小劇場	■つぼみ会
日時／11月21日(日)	主催／坂東愛
会場／国立劇場小劇場	

その他

坂東流お揃い浴衣の販売

坂東会創立百周年記念の浴衣など、3つの柄が揃いました。お揃いの浴衣を着てお稽古に励みましょう。詳細は同封のチラシをご覧ください。

富士さくらの修了証の発行

流儀の曲である長唄『富士』、清元『さくら』を習得した方には、修了証を発行します。お申し込みの締切日は次の通りです。

締切日／2月10日、6月10日、10月10日

会費の値上げについて

値上げを予定していましたが、来年度以降に延期します。

坂東会ホームページ掲載料の納入

「お稽古場を探す」にご登録いただいている方は、今年度(令和3年4月～令和4年3月)の掲載料をお納めください。

掲載料／6000円
振込先／坂東会
みずほ銀行神田支店
普通 1367155

✿ 新名取のご紹介

令和三年三月までの名取試験合格者です。

会員番号	芸名	本名	取立師匠
M-128	吉明 <small>よしかつ</small>	関口明子	勝吉郎
M-129	彌風 <small>やまかぜ</small>	池原正風	愛
M-130	あや彦 <small>あやひこ</small>	佐々木史	勝彦
M-131	以翠 <small>いすい</small>	瀬田夕風	以津緒
M-132	花連 <small>かか</small>	西原真奈美	以津緒
M-133	蝶子 <small>ちやんこ</small>	須藤みなみ	蝶
M-134	一番 <small>いちばん</small>	竹内絢香	富起子
M-135	英起 <small>えいき</small>	横谷英子	富起子

✿ 師範名取のご紹介

令和三年三月までの師範試験合格者です。

会員番号	芸名
M-23	竜二郎



坂東会創立百周年記念書籍

初心忘れず
『初心不忘』を刊行

坂東会が百周年を迎えたことを記念し、歴代家元の紹介、坂東会を支えたお師匠さんたちの足跡、坂東会の100年の歩みなどをまとめた書籍を刊行します。百周年記念の手ぬぐいととも6月に会員の皆さまに発送の予定です。

✿ お悔やみ申し上げます

令和元年十月五日	坂東富貴二郎
令和二年二月十三日	坂東瑞文乃
令和二年四月	坂東八寿若
令和二年六月十一日	坂東菊彩
令和二年七月五日	坂東八之輔
令和二年七月十六日	坂東通之丞
令和二年八月	坂東若吉
令和二年九月十九日	坂東勝冬次
令和二年十月六日	坂東智扇
令和二年十月二十七日	坂東菊央
令和二年十一月十二日	坂東勝千香
令和二年十一月三日	坂東三葉雀
令和二年十二月十二日	坂東五十助
令和二年二月九日	坂東八十菊

✿ 事務局だより

今年度から理事、委員、支部委員のメンバーが変わりました。新しい顔ぶれで気持ちも一新し坂東会の運営を行ってまいります。延期になりました百周年記念舞踊会の日程も来年に決まりました。また、今年秋には初めて京都先斗町の歌舞練場で、関西チャリティーを西日本チャリティーと名称を変えまして開催します。近県はもちろん、東京や東北からも京都観光をかねて足を伸ばしていただければ幸いです。名取試験・師範試験は九月開催予定です。また、試験に併せて講習会も行います。詳細、申し込みなどは事務局までお問い合わせください。

新型コロナウイルス感染症でいろいろご不自由をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

(坂東会事務所鷹野)

✿ 編集後記

会報を手に取りられて驚いている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今号から表紙はカラー、中面は二色、そして紙質も変え、会報を刷新いたしました。これを可能にしたのは、モノクロでもカラーでも印刷費に大きな違いがないという、昨今の印刷事情にあります。そして変わったのは仕様だけではありません。構成、内容、企画も見直しまして、読み物ページと情報ページをしっかり分けて編集しました。どう変わっているか？それは改めて紙面をご覧ください。ただできれば幸いです。

ご意見等ございましたら、事務局までお寄せください。まだしばらくコロナ禍が続くようです。皆さまお身体大切に、ご自愛くださいませ。

(広報部委員)

坂東会 第一三五号

令和三年五月一日発行

編集発行人 坂東会広報部

発行所 坂東会事務所

〒101-0047

東京都千代田区内神田一丁目十八ー十一 東京ロイヤルプラザ301号

☎03(3518)8210

FAX 03(3518)8210

E-mail: bandokai@crux.ocn.ne.jp